

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和4年2月4日 No. 47 文責：佐野紳二

ネットやスマホは正しく怖がり，賢く使おう 「ほっと！ネットセミナー」より

1月26日（水）に，県教育庁生涯学習課より小澤哲也先生にお越しいただき，4年生を対象に「ほっと！ネットセミナー」を開催しました。セミナーの内容は表題からも分かるように，インターネットやネットを利用したオンラインゲームに潜んでいる危険性を正しく知り，上手に付き合う方法について考えるというものでした。（当初は「教育を語る会」として親子でお話を伺えればと思っていましたが，1学期の開催ができなかったため，今回児童だけを対象に行いました）

お話の中で小澤先生が子どもたちに何度も伝えていたのは，「怖いことがあるから使わないのではなく，正しい知識を身に付けてうまくネットと付き合おう」ということと，「気がついた時点で，自分ができることから取り組んでいこう」ということでした。学校に一人一台端末が整備され，スマートフォンの所持率が徐々に高くなっている現在，小学生の子どもたちも近い将来，多くの子が自分用の情報端末を手にすると思われます。（現在，すでに本校の約2割の子がスマホを所持しています）また，DSやSWICHなどのゲーム機も，オンラインでの利用が可能になっているようなので，子どもたちと一緒にゲームやSNSの使い方について考えルール作りをしていくことがとても大切だと思います。また，（私も含めて）多くの親は，スマホやゲーム機を子どもに買い与えても，子どもがどんなふうに使っているかを把握していないと言われていきます。たとえ子どもとは言え，プライバシーの問題もあるので難しい部分はありますが，だからこそ，情報端末を子どもが最初に手にするときに，きちんとしたルールを親子で共有しておくことが大切です。（スマホを手にして何年も経過した高校生の子に，「明日からこういうルールで」と提案しても，受け入れてもらうのは難しいでしょう）

今回は4年生の子どもを対象とした授業でしたが，当日の授業で使用された資料は，山梨県教育委員会生涯学習課のホームページにアクセスすると誰でも見ることができます。（右のQRコードからアクセスしてみてください）来年度以降も，子どもたちを対象にした「情報モラル教育」には本校でもきちんと取り組んでいこうと考えています。また，親子での学習会についても機会を設けることができればと考えています。



余談ですが…

- ◇ 全国学力・学習状況調査で行われた質問紙調査の結果を見ると，小中学生ともに7割以上が平日でも1日1時間以上ゲームをしていることが分かりました。平均時間は小学校6年生で2.15時間，中学校2年生では2.31時間になるそうです。
- ◇ ゲームをする時間の短さと，学力検査の正答率との間には相関関係（時間が短いほど正答率が高くなる）があることも明らかになっているそうです。

2月3日は節分です 鬼について調べてみました

昨日2月3日は節分、今日4日は立春と徐々に春が近づいています。(まだまだ「春」というにはかなり寒いですが…)「節分」と言えばやはり「豆まき」ということで、今回は豆まきの主役?でもある鬼について調べてみました。大人気の漫画「鬼滅の刃」の例を挙げるまでもなく、昔から鬼は「悪いものの象徴」のように扱われてきましたが、実際のところ「鬼」ってどんなものなのでしょう。

まずは例によって、国語辞典(広辞苑)で鬼について調べてみました。

(「隠(おぬ)」で、姿が見えない意という)

- ①天つ神に対して、地上などの悪神・邪神。
- ②伝説上の山男、巨人や異種族の者。
- ③死者の霊魂。亡霊。
- ④恐ろしい形をして人にたたりをする怪物。もののけ。
- ⑤想像上の怪物。仏教の影響で餓鬼、地獄の青鬼・赤鬼があり、美男・美女に化け、音楽・双六・詩歌に優れたものとして人間世界に現れる。のちに陰陽道の影響で、人身に牛の角や虎の牙を持ち、裸で虎の皮のふんどしをしめた形をとる。怪力で性質は荒い。



【広辞苑より】

国語辞典で見ると、おおよそ私たちが持っているようなイメージ(悪い・怖い・化物・強い)に沿ったことが書かれていました。しかし、地方によっては鬼を「強い守護神」というイメージでとらえているところもあり、一つの観念としてまとめられない感じがします。

鬼は、恐ろしいもの、力強いもの、超人的なものの象徴とされています。人に危害を加えたり、人を食べたりするなど「悪」の存在であることが多いのですが、人を助けたり幸せをもたらす「善」や、崇められる「神」など、多様な捉え方があります。

それらの背景にあるのが、本来、鬼は「死者の霊」であるという考え方です。言い換えれば、人間が鬼になるということになります。人の死去を「鬼籍に入る(きせきにいる)」というのはその表れで、鬼を祖霊や神と結びつけるようにもなりました。そして、鬼には超人的な能力があり、人間の禍福(かふく。わざわいと幸せ)を支配する存在だと捉えるようになりました。超人的なものに対するおそれや憧れから、鬼は多種多様な描かれ方をするようになったと考えられています。

【All About より】

また、仏教の考え方も鬼の在り方に影響を与えています。

(とは言え、「鬼」はどうやら日本古来の妖怪のようです。他の国の言葉に訳してみるとほとんどが「悪魔(Demon)」となり、鬼よりも広義の捉え方になるようです。「鬼滅の刃」の英語タイトルも「Demon slayer」ですね。)

最後に、節分の豆まきについても調べてみました。



古来、人間の力ではどうにもならない天災、飢饉、疫病などは鬼の仕業と考えられてきました。年の節目にあたる立春前日の節分は、鬼=邪気が入りやすいとされたため、新しい年に向けて家中の鬼を払い、福を呼び込むために豆まきをするようになりました。

鬼はどこにでもひそんでいて、隙があると暴れだします。人の心の中にも鬼がひそんでいるので、豆まき後に豆を食べ、心の邪気(邪心)も払います。

【All About より】

鬼に関する記述や文献は多く、この紙面だけでは紹介しきれないほどです。興味がある人は是非、いろいろな文献をあたり、鬼について調べてみると面白いと思います。私は今年も「世の中に溢れている厄災(今だったらコロナかな)を家の中から追い払うぞ!」という気持ちを込めて、家族と一緒に豆まきをしました。